

3 河村能夫・星野敏・日瀬守男著『地域活性化と計画』

明文書房、1994.1、P133、¥2,600

東北農業試験場 浅井 悟

本書は3部構成をとっている。第1部の「地域活性化の理念と課題」では、活性化を「日常的水準を越える付加価値を達成する動き」として定義し、価値観の多様化した現代における新たな活性化概念として、少品目大量生産のフォーディズムに代わる多品目少量生産のニッティズムを提示している。第2部の「地域計画の理論と手法」では、従来型地域計画に対して、ビジョン設計過程を重視したトップダウン型の戦略的構想計画と、調査・診断過程を重視したボトムアップ型の住民主体型地区計画を提案している。第3部の「地域活性化事例」では、岡山県内を中心とした市町村レベルの振興計画とドイツの村落開発計画の事例が紹介されている。全体的に地域活性化と計画に関する概念設計・理論展開に紙幅の多くが割かれており、専門書と大衆誌の中間をねらったという本シリーズのなかでは、本書は専門書に近い位置づけにある。ご一読をお薦めしたい。